



放送大学におけるマルチチャンネル 放送開始について

放送大学学園 放送部長 ほんま ゆうじ
本間 祐次



1. はじめに

放送大学は、全国を対象としてテレビ・ラジオ放送等によって授業を行っている通信制の大学である。従来は関東地方の一部で地上テレビ放送及びFM (Frequency Modulation) ラジオ放送を行うとともに、衛星放送 (BS: Broadcasting Satellite) で全国にテレビ・ラジオ放送を実施していたが、2018年9月末で地上放送を終了するとともに、生涯学習に対する社会的なニーズに応えるべく同年10月1日からBSテレビで2チャンネルのマルチチャンネル放送を開始した。

本稿では、このマルチチャンネル放送の概要を中心に、放送大学の取組みを紹介することとしたい。

2. 放送大学の概要

2.1 設立の経緯

1960年代後半、日本は科学技術の進歩と社会経済の著しい発展の時期を迎え、大学・短期大学への進学志願率が年々上昇し、高等教育の一層の拡充を図ることが課題となっていた。また、当時は一部の地域にしか大学等が設置されていなかったこともあり、より多くの学生を対象にして、より高度な教育を行う方法についての関心が強まっていた。

一方、同時期に郵政省 (現総務省。以下同じ。) において検討が進められていたUHF (Ultra High Frequency) 帯電波の実用化についての目途が付き、UHF帯テレビ及びFMラジオの周波数割当てについての議論も具体的に行われる段階になっていた。

こうした動きを背景として、文部省 (現文部科学省。以下同じ。) と郵政省の間で、教育機関が自ら運営する非営利の教育専門放送局の設置について具体的な検討が進められ、放送大学学園を設置する方針が固まった。その後、1981年に放送大学学園法が成立するとともに学園が設立され、1983年には放送大学が設置された。そして、1984年に放送大学学園に対して東京・前橋のテレビ及びFMラジオの免許交付が行われ、翌1985年に放送による授業が開始された。

なお、放送大学学園と放送大学の関係について補足すると、放送大学学園は学校及び放送局を設置して経営を行う主体である一方、放送大学は学園が設置した学校であり教育を行う主体である。ただし、一般の視聴者から見れば学

園と大学の区別は意識されないことが通常であるので、本稿では両者について厳密な区別を要する箇所を除き、放送を行う主体についても単に「放送大学」と呼称して説明を行うこととする。

2.2 大学の概要

(1) カリキュラム

放送大学は、国民の多様な要請に応じて豊かな教養を培うとともに、実生活に即した専門的学習を深められるよう、幅広い学問分野から成る教養学部6コース、修士課程7プログラム、博士課程6プログラムを設けている。

このほか、教員免許更新講習を実施したり、看護師国家試験受験資格の取得に放送大学の単位を活用できる等、各種の資格取得に資するカリキュラムも設けている。

(2) 学生の構成

放送大学の2017年度第2学期時点の在学生数は、学部85,420人、大学院5,387人で、合計約91,000人の学生が在学している。

また、学生の構成は、男女別では男性46%、女性54%と男女がほぼ均等で、年齢別では40～50代を中心に10代～70代以上まで幅広く分布しているのが特徴である。

(3) 授業形態

放送大学の授業はテレビ及びラジオの放送授業、インターネットで視聴するオンライン授業、学習センター等で実施する面接授業の3つの形態がある。

放送授業は、全国を対象にBSテレビ・ラジオで放送している授業を視聴し、印刷教材との併用により学習を行うものである。放送授業はインターネットのVOD (Video On Demand) でも提供しており、放送大学の学生のアカウントがあれば、大学のwebサイトからも視聴可能である。また、ラジオについては、インターネットでラジオ放送の再送信を行っているサービスであるradikoでも聴取可能である。なお、授業は放送で視聴できるものの、単位認定試験については、後述する学習センター等で実施することが一般的である。

オンライン授業は、インターネットのみで視聴可能な授業であり、双方向性を活用して、小テストやディスカッション、レポート提出等もインターネット経由で実施している。放送授業はテ



レビやラジオで誰でも視聴可能であるが、オンライン授業は放送大学の学生のみが対象となっている。

面接授業は、各都道府県に少なくとも1つ、全国57か所に設置された放送大学の学習センター及びサテライトスペースで実施される授業で、通常の大学の授業と同様に、教室で講師と学生の対面により実施される。学習センター等ごとに地域の歴史・文化に関連した講義を開講するなど、各地で特色のある授業が実施されている。

2018年度に開設している授業は、放送授業が学部・大学院を合わせてテレビ173、ラジオ183の合計356、オンライン授業が38、面接授業が全国合計で3,196となっている。

3. 放送大学の放送サービス

3.1 放送の全国展開

前述したように、放送大学は1985年に地上テレビ・ラジオ放送を開始した。当初は順次地上テレビ・ラジオの放送対象地域を拡大し、全国をカバーする構想であったが、その後新たな放送メディアとして衛星放送が実用化されたため、地上放送による全国展開の代わりに衛星放送の利用が検討されることとなった。この結果、1998年にCS（Communication Satellite）デジタル放送による全国放送を開始し、さらに2011年にはBSデジタル放送でのテレビ・ラジオ放送が実現した。なお、BSデジタル放送の開始に伴い、CSデジタル放送は2012年に終了している。

3.2 地上放送の終了

上述のように、BSによる全国放送が実現した結果、関東地方では地上放送とBS放送が重複して提供される状況となった。これを受けて2016年5月、放送大学は、貴重な電波を重複利用している状況の解消、地上放送に係る経費等の削減による経営の効率化、近年における一般家庭へのBS放送受信機の普及状況、在学生向けの授業番組のインターネット配信の利用状況等を踏まえ、地上放送の免許の有効期限である2018年10月末までに、地上放送を終了するために必要な手続きを開始することを公表した。

その後、総務省に対して所要の手続きを進めた上で同年9月30日に通常の地上放送を終了した。なお、我が国の地上デジタルテレビ放送終了は、放送大学が初の事例となる。

3.3 マルチチャンネル放送の開始

現在、政府においては人生100年時代を見据えた「人づくり革命」や「働き方改革」が重点課題に掲げられており、

社会人に対して様々な学び直しの機会を提供していくことによって社会に貢献していただくとともに、各自の人生がより充実したものとなるよう、施策が検討されている。具体的には、文部科学省中央教育審議会において、放送大学を学び直しの機会を提供する先導的役割を果たす高等教育機関として位置付けること等が検討されている。

こうした中で、放送大学としても多様な学び直しや生涯学習のニーズに応える必要があると判断し、地上放送を終了してBS放送に全面的に移行するタイミングを捉え、新たな放送サービスを開始することとした。即ち、従来は一部の時間帯を除いて1チャンネルのみの放送だったテレビにおいてBS231チャンネルとBS232チャンネルのマルチチャンネル放送を実施し、新たな学習ニーズに対応した新チャンネルを開設したのである。

具体的には、従来からの単位認定を前提とした授業科目に対応した番組（授業番組）の放送を行うBS232チャンネルに加え、大学卒業の単位認定を前提としない様々な学びの機会を提供する番組（生涯学習支援番組）の放送を行うBS231チャンネルを開設し、2018年10月1日より、マルチチャンネル放送を開始した。（写真1、2）。

なお、ラジオについてはBS531チャンネルで従来通り放送を継続している。ちなみに、現在BSラジオ放送を行っている放送事業者は放送大学のみである。



■写真1. 放送大学BSマルチチャンネル放送開始式典の様相
（10月1日於千代田放送会館）

文部科学省及び総務省から来賓をお招きし、マルチチャンネル放送開始を祝う式典を開催した。写真左から放送大学学園 有川理事長、文部科学省 常盤生涯学習政策局長、総務省 山田情報流通行政局長、放送大学 来生学長、放送大学イメージキャラクター まなびー。



■写真2. マルチチャンネル放送開始当日の主調整室の様相
同日、新しい放送番組運行システムへの切替えも行われ、主調整室でもテープカットが行われた。

4. マルチチャンネル放送の概要

4.1 チャンネルの愛称及びロゴマーク

マルチチャンネル放送の開始に当たり、各チャンネルの識別を容易にするとともに認知度向上を図るため、以下のとおり愛称及びロゴマークを制定した。

(1) BS231チャンネル：「BSキャンパスex」

従来の放送大学の教育を拡張(エクステンション)して、様々な学びの機会を提供する番組を放送するチャンネル(図1)。

人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知の基礎、職業的能力の向上に資する番組により「学び直し」のきっかけにつながる生涯学習支援番組や、放送大学の魅力、放送大学での学び方を紹介する告知番組を中心に放送を実施。

(2) BS232チャンネル：「BSキャンパスon」

放送大学が実施(オンキャンパス)している単位認定を前提とした授業番組を放送するチャンネル(図2)。

マルチチャンネル放送開始以前から放送大学で実施していた、単位認定を前提とした授業番組の放送を実施。



■図1. BSキャンパスexのロゴマーク



■図2. BSキャンパスonのロゴマーク

※ 「BSキャンパスex」、「BSキャンパスon」及び上記のロゴは放送大学学園が商標登録を出願中です。

4.2 編成方針

BS231チャンネルは、社会人として活動している世代を中心に、現在放送大学の学生ではない一般視聴者を主な視聴者層と想定している。このため、多くの社会人が視聴可能となるよう、平日及び土曜の夜間並びに日曜に生涯学習支援番組を集中的に配置する編成としている。また、平日及び土曜の日中の時間帯は、放送大学の教育課程について理解を深めてもらい放送大学での履修へのきっかけとなるよう、曜日別に各コースから選ばれた授業番組を放送している。

一方、BS232チャンネルは学生の履修の利便性を考え、従来の編成方針を踏襲し時間帯別に各コースの授業番組を配置している。

なお、同一の授業番組が両チャンネルで放送される場合があるが、この場合も両チャンネルで曜日・時間が重複しないように配置し、当該科目を履修している学生が授業を復習したい場合等に配慮し同じ週に複数回視聴が可能となるようにしている。

4.3 番組

従来の授業番組は科目設計から制作完了まで3年程度を要し、最新のトピックスを盛り込むことは困難であった。これに対しBS231チャンネルで放送する生涯学習支援番組は、短期間で番組企画から制作まで行う体制を構築し、タイムリーな話題を取り上げた番組を随時放送していくこととしている。具体的には、以下のような番組シリーズを順次放送していくこととしている。

(1) クロス討論

現代社会の複雑な事象を、既存のテレビメディアとは一味違った視点で迫る、新しい討論番組。時事的にクローズアップされたテーマ等を、ジャンルを超えた講師陣が討論で深く掘り下げる(写真3)。



■写真3. クロス討論「人生における学び直し〜リカレント教育とは〜」

(2) スペシャル講演

放送大学が誇る多彩な講師陣によるスペシャル講演番組。授業科目とは一味違った講師の研究成果に関する、アカデミックかつ知的な刺激にあふれた講演の様子を、オーディエンスとの活発なやりとりなども交えて伝える。

(3) 公開講座セレクション

全国各地の「学習センター」で開催されている「公開講演会」や「面接授業」。全国からオーディエンスが訪れる、独自性の高い魅力的な講演会を収録し、幅広い教養教育講座として紹介する。

(4) 産学官民共同プロジェクト番組

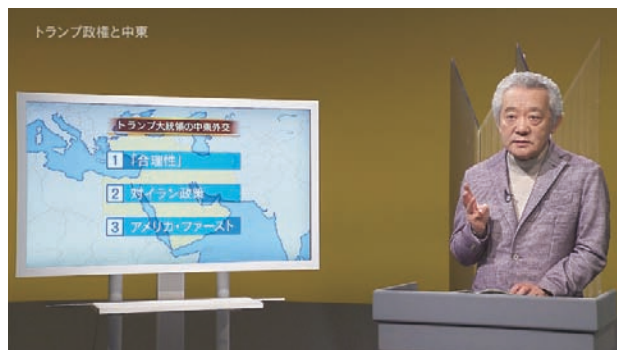
産学官民で蓄積されてきた優れた知見を社会に還元していく番組。学問体系全体を踏まえた学問最前線が分かる教養系番組を提供する（写真4）。



■写真4. 産学官民共同プロジェクト番組「科学技術立国への挑戦」

(5) 16番目の授業

15回のシリーズで構成される授業科目を終えて、そこから一歩先へ踏み込み、授業科目と現代社会を結び付ける内容の「16番目の授業」。それぞれの科目が目指す、社会との関わりなどを講師自身の言葉で語りかける（写真5）。



■写真5. 16番目の授業「パレスチナ問題 トランプ政権と中東」

(6) キャリアアップ

入門者からスペシャリストまで各階層で社会的な需要が高まっている、例えばデータサイエンスやサイバーセキュリティ分野の人材育成を目指す授業番組。実践的な知の獲得や職業的能力の向上を目指す。

5. おわりに

放送大学は、放送サービス以外にも授業番組のVODやオンライン授業等、インターネットの活用積極的に取り組んでいるところであるが、今回のマルチチャンネル放送開始を睨み、インターネットを活用した番組広報の強化にも取り組んでいる。具体的には、2018年4月にインターネットの動画視聴サイトであるYou Tubeに「放送大学You Tubeチャンネル」を開設し、番組のPR動画を掲載している。また、放送大学のwebサイト上の番組案内ページも全面的にリニューアルし、随時新作が放送されることとなる生涯学習支援番組等の紹介を充実させている。今後、インターネット広告やSNS（Social Networking Service）等も活用して、新たな放送大学の番組についてさらに周知広報を強化していく考えである。

また、将来的には、生涯学習支援番組とオンライン授業を組み合わせ、データサイエンスやサイバーセキュリティ等の資格系の番組を視聴し、これと連動したオンライン教育に進んだ者に対して有償で認証を行うといった仕組みを導入するなど、BS231チャンネルを収益につなげていく方策も検討していくこととしている。

放送大学としては、こうした様々な取組みを通じ、今後もより質の高い大学教育を提供していくとともに幅広い層の生涯学習を支援していく所存である。